

首都圏における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）

研究協力者：金子典代（名古屋市立大学大学院看護学研究科）

岩橋恒太 木南拓也、藤原孝大、荒木順（特定非営利活動法人 akta）

星野慎二、宮島謙介（特定非営利活動法人 SHIP）

研究要旨

東京地域では、対面とディスプレイを活用した検査キットの配布を実施した。入念な広報や情報提供の準備を行い、対面型に限定し検査を受けたことがないものに対しては、不安を軽減する工夫を実施した。

初年度に 95 キット、2 年度目に 387 キット、最終年度に 499 キットの配布ができ、総計で 981 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 1 件、2 年度目が 6 件、最終年度が 6 件（総計で 13 件、1.7%）、梅毒の陽性件数は初年度が 15 件、2 年度目が 37 件、最終年度が 65 件（総計で 117 件、15.5%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、93.7%~99.2%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 3 名であった。

神奈川地域では、貸し会議室等の配布会場を借りるなど密を避けて受付対応を行った。

初年度に 160 キット、2 年度目に 174 キット、最終年度に 225 キットの配布ができ、総計で 559 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 3 件、2 年度目が 3 件、最終年度が 4 件（総計で 10 件、2.2%）、梅毒の陽性件数は初年度が 27 件、2 年度目が 24 件、最終年度が 33 件（総計で 84 件、18.9%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、95.6%~98.5%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 5 名であった。

保健所の検査機会や検査行動が減少する傾向がある中、CBO が検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。

A.研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所

に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和 2 年 2 月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも

新たな検査機会での補完が急務となった。

そこで、東京地域では、自己採血の DBS 検体を送付しスクリーニング検査を受けるゆうそう検査をコミュニティセンターaktaでの対面で配布した。

神奈川地域では、コミュニティセンター、貸し会議室等の会場を借りての対面配布、WEB 配布を実施した。MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選択肢を増やし、期間集中で配布し、検査普及における有効性の評価を行う。

B.研究方法

東京地域ではコミュニティセンターaktaにおいて、本プロジェクトに関する説明事項を含むウェブサイトを開設した。コミュニティセンターでの対面型配布のみとした。公式ホームページ、公式 Twitter で広報を行った。

検査キット受け取り希望者はコミュニティセンターに直接来館し、その場でアンケートに答えてもらい、アンケート回答後にコミュニティセンタースタッフが検査に関して説明をして、最後に受け渡す方法をとった。来場者には、①検査キット、②確認検査を受けられる施設情報シート、③郵送検査会社作成 梅毒検査の意味、④サポート情報カード、⑤梅毒啓発資材を配布した。また最終年度は英国の研究チームと連携を行い、デジタルディスペンサーを導入し、対面とデジタルディスペンサーの選べる受け取り方法を行った。

神奈川地域では、対面型配布と WEB 配布 2 パターンで実施した。配布スタッフは、統括予約受付、配布担当を配置することとした。WEB 配布については、アプリ広告、

Twitter での広告を行った。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

C.研究結果

1) 東京地域

令和 2 年度は、総計 95 キットを配布した。コミュニティセンターakta での対面配布のみであった。予約サイトを活用し、密を避けて受付対応を行った。

アンケートに回答したものは 118 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 79 名であった。96.2%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 1 件、梅毒の陽性件数は 15 件(既感染も含む)であった。陽性者は病院に受診がつながったことを確認した。検体を郵送した 79 名のうち、71 名 (89.9%) はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答しかつ検体郵送した者 71 名の属性については、35 歳未満が 52.2%を占めた。東京都の居住者が 73.2%であった。生涯初の検査経験割合は 8.5%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 56.3%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 33.8%を占めた。

令和 3 年度は、総計 387 キットを配布した。コミュニティセンターakta での対面配布のみであった。今年度も予約サイトを活用し、密を避けて対面での説明を加え対応を行った。キット受け取り者のうち、実際に検体を郵送会社に郵送したものは 314 名であった。97.1%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 6 件、梅毒の陽性

件数は 37 件（既感染も含む）であった。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 260 名の属性については、29 歳以下が 28.8%を占めた。アンケート回答者 588 名においては、東京都の居住者が 63.1%であった。検体を送付した 260 名のうち、生涯初の検査経験割合は 15.0%、過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 58.5%であった。キットを受け取り、検体を送付したもののうち MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 46.9%を占めた。

最終年度は、すべてコミュニティセンター-akta において対面で口頭説明付きで配布を行った。総計 499 キットを配布した。キット受け取り者のうち、実際に検体を郵送会社に郵送したものは 389 名であった。99.2%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 6 件、梅毒の陽性件数は 65 件（既感染も含む）であった。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 297 名の属性については、29 歳以下が 21.5%を占めた。東京都の居住者が 61.3%であった。生涯初の検査経験割合は 15.8%、過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 51.9%であった。キットを受け取り、検体を送付したもののうち MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 46.5%を占めた。

基本的には月曜日に予約制で対面配布を行った。木曜日から日曜日は、予約なしでも可とし、対面またはディスプレイで配布を行った。開館時の配布では、早い時間に受け取りに来る人が多かった（開館前も含む）ことがあげられた。また予約枠と比べ、開館時の受け取りは、対象者の検査についての

準備性が低かった。予約枠は土壇場でのキャンセルが多いことが分かった。開館時は、他の作業や MTG、プログラム等との兼ね合いが難しかった。また説明動画を倍速で見られる方もいたので、何度も見れる説明やフォローを追加する必要があった。グループでの受け取りは準備性が異なり、一緒に説明することが難しい事例があった。シフトスタッフが少ないときには、検査対応中に電話対応や来場者対応等が必要なこともあり、バランスをとることが難しいと感じた。また対象者には、説明を集中して聞いていただけなかったり、注意散漫になりながら説明を聞く人もあり、対応が難しかった。以前の利用者では説明をスキップしようとする方もおられた。特に実家暮らしの学生等への資料提示、配布は難しい。対象者からの質問対応では、結果の受け取りまでの時間や、梅毒に関する基本情報、HIV と梅毒で結果は別々に来るか？など様々なものがあつた。聴覚障がい者の方への説明が必要な場面もあり、今後検討が必要であった。ゆうそう検査を使ってみた動画をインスタで上げたいとの声もあつた。メディア対応等が事前にルール化されていると良いと思った。また外国人が日本人と一緒に来場したときにどのように説明するかが難しかった。

2) 神奈川県地域

令和 2 年度は、総計 160 キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布 75 件、WEB での配布が 85 件であった。貸し会議室等の配布会場を借りるなどし、密を避けて受付対応を行った。

アンケートに回答したものは 178 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送し

たものは 137 名であった。95.6%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 3 件(うち 1 件は確認検査受検の確認済み)、梅毒の陽性件数は 27 件(既感染も含む)であった。検体を郵送した 137 名のうち、121 名(88.3%)はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 121 名の属性については、35 歳未満が 46.3%を占めた。神奈川県 of 居住者が 60.3%、東京都の居住者が 29.8%であった。生涯初の検査経験割合は 25.6%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 66.9%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 52.1%を占めた。

令和 3 年度は、総計 174 キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布 61 件、WEB での配布が 113 件であった。貸し会議室等の配布会場を借りるなどし、密を避けて受付対応を行った。

アンケートに回答したものは 181 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 130 名であった。98.5%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 3 件、梅毒の陽性件数は 24 件(既感染も含む)であった。アンケートに回答した者 204 名の属性については、40 歳未満が 77.4%を占めた。南関東地域の居住者が 53.4%、東京都の居住者が 33.2%であった。204 名のうち、これまでに検査を受けたことがないものの割合は 26.0%、過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 61.9%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 59.6%を占めた。

最終年度も対面配布と WEB 配布を行った。対面配布で 75 件、WEB 配布で 150 件の総計 225 キットを配布した。キット受け取り者のうち、実際に検体を郵送会社に郵送したものは 184 名であった。98.4%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 4 件、梅毒の陽性件数は 33 件(既感染も含む)であった。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 147 名の属性については、29 歳以下が 34.4%~41.9%を占めた。東京都の居住者が 26.2%~37.2%、神奈川県を含む南関東の居住者は 73.8%~52.3%であった。生涯初の検査経験割合は 29.5%~31.4%、過去 1 年の検査経験がなかったのは 62.3%~58.1%であった。キットを受け取り、検体を送付したもののうち MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 44.2%~57.0%を占めた。

D.考察

新型コロナウイルスの影響で、保健所での HIV 検査が休止になったところもあり、定期的に保健所で検査を受けていた人が、キットを受け取りに来ることがあったと考えられる。

郵送検査の方法および確認検査を受ける場所への誘導について口頭で説明する必要があると考え、akta では対面で配布する方法をとった。受検者と直接接することで、検査方法を詳細に伝えることができ、問い合わせに対してもその場で答えることで、受検者に対して安心感を与えることができた。私たち自身も受検者がどのような疑問を持っているかを知ることができた。いまだ多くの保健所の検査提供が少なくなっている

こともあり、予約枠はすぐ埋まる状況であった。

今後、どのような層にこのゆうそう検査を届けるかを考え、ターゲットを絞った広報、検査提供を考える必要がある。また、東京都以外にも様々な居住地の MSM がキットを受け取りに来る可能性があり、遠方から取りに来たものについての対応も今後検討する必要がある。

E.結論

東京地域では、対面とディスプレイを活用した検査キットの配布を実施した。入念な広報や情報提供の準備を行い、対面型に限定し検査を受けたことがないものに対しては、不安を軽減する工夫を実施した。

初年度に 95 キット、2 年度目に 387 キット、最終年度に 499 キットの配布ができ、総計で 981 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 1 件、2 年度目が 6 件、最終年度が 6 件（総計で 13 件、1.7%）、梅毒の陽性件数は初年度が 15 件、2 年度目が 37 件、最終年度が 65 件（総計で 117 件、15.5%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、93.7%~99.2%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 3 名であった。

神奈川地域では、貸し会議室等の配布会場を借りるなどし、密を避けて受付対応を行った。

初年度に 160 キット、2 年度目に 174 キット、最終年度に 225 キットの配布ができ、総計で 559 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 3 件、2 年度目が 3 件、最終年度が 4 件（総計で 10 件、2.2%）、梅

毒の陽性件数は初年度が 27 件、2 年度目が 24 件、最終年度が 33 件（総計で 84 件、18.9%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、95.6%~98.5%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 5 名であった。

保健所の検査機会や検査行動が減少する傾向がある中、CBO が検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。

F.研究発表

1.論文発表

- 1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020.DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339
- 2) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 3) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.
- 4) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にし

た当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. 日本エイズ学会誌,22(3), 136-146,2020.

- 5) 今橋真弓, 金子典代, 高橋良介, 石田敏彦, 横幕能行:名古屋市無料匿名性感染症検査会受検者における性感染症既往認識と検査結果. 日本感染症学会誌, 31(1), 2020. doi:10.24775/jjsti.S-2019-0003.

2.学会発表 (国外)

- 1) Anand Tarandeep, Nitpolprasert Chattiya, Shirasaka Takuma, Iwatani Yasumasa, Yokomaku Yoshiyuki, Imahashi Mayumi, Kaneko Noriyo, Iwahashi Kota, Ikushima Yuzuru, Aoki Rieko, Ishida Toshihiko, Shiono Satoshi, Yamaguchi Masazumi, Takemura Keizo, Iwamoto Aikichi: HIV Prevention among MSM in JAPAN: Current Opinions on Achieving the First 90 among Japanese MSM. The International Congress on Drug Therapy in HIV Infection(HIV Glasgow 2020), Glasgow, 2020.
- 2) Benjamin R. Bavinton, Adam Hill, Natalie Amos, Sin How Lim, Thomas Guadamuz, Noriyo Kaneko, Martin Holt, Adam Bourne: Low PrEP uptake among gay, bisexual, and other men who have sex with men in five Asian countries: Results of the Asia Pacific MSM Internet Survey. The 11th IAS - the International AIDS Society - Conference on HIV Science, Virtual, 2021.

- 3) Adam O Hill, Benjamin R Bavinton, Noriyo Kaneko, Lise Lafferty, Anthony Lyons, Stuart Gilmour, Jennifer Power, Gregory Armstrong: Associations between social capital and HIV risk-taking behaviours among men who have sex with men in Japan. 2021 Joint Australasian Sexual Health and HIV&AIDS Conferences, Virtual, 2021.

3.学会発表 (国内)

- 1) 金子典代:U=Uをめぐる陽性者と HIV 予防対策と医療者のあり方について. 日本エイズ学会シンポジウム, 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 2) 林田庸総、柏木恵莉、土屋亮人、高野操、青木孝弘、瀧永博之、菊池嘉、岩橋恒太、金子典代:乾燥ろ紙血による HIV Ag/Ab 郵送検査の検査ラボでの結果についての検討. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 3) 荒木順、金子典代、木南拓也、柴田恵、岩橋恒太、藤原孝大、鈴木敦大、小山輝道、高久道子、高久陽介、市川誠一、張由紀夫、生島嗣:ゲイバー等との連携による「LivingTogether のど自慢」の実践とその効果について. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 4) 井上洋士、後藤大輔、舩石翔馬、高橋良介、塩野徳史、金子典代:成人前期(20歳代)MSMでの性行動と HIV・性感染症認識に関する面接調査研究. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020

- 5) 高橋良介、末盛慶、金子典代、石田敏彦：NLGR+への参加状況と HIV 抗体検査受検経験の関連性. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 6) 金子典代：日本の MSM における HIV 検査の促進、阻害要因に基づく検査拡大ストラテジー. 第 1 回 Fast-Track Cities Workshop Japan, Tokyo, 2021
- 7) 金子典代：MSM を対象とした HIV 検査促進プログラムの変遷と HIV 検査機会拡大にむけた新たな試み. 日本エイズ学会シンポジウム, 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2021
- 8) Michiko Takaku, Myagmardorj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa：Studies on mitigating stigma and developing an awareness program targeting a population at risk for HIV infection in Mongolia. 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2021
- 9) 浅沼智也、金子典代、荒木順、生島嗣、塩野徳史、砂川秀樹、宮田りりい、今村顕史：トランスジェンダーとセクシュアルヘルス. GID 学会第 23 回研究大会・総会, WEB 開催, 2022
- 10) 金子典代、浅沼智也、荒木順、生島嗣、塩野徳史、砂川秀樹、宮田りりい、今村顕史：性別違和・トランスジェンダー当事者における性産業従事経験、性行動、性感染症の罹患、検査の実態. 第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会, 浜松, 2022

G.知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

- | | |
|----------|----|
| 1.特許取得 | なし |
| 2.実用新案登録 | なし |
| 3.その他 | なし |

表 1 郵送検査利用者の概要（令和 2 年度 -令和 4 年度）東京地域

| | 年度 | R2 | R3 | R4 | |
|---------------------------------|------------|--------------|---------------|---------------|---------------|
| | 地域 | 東京 | 東京 | 東京 | |
| | CBO | NPO法人akta | NPO法人akta | NPO法人akta | 計 |
| | コミュニティセンター | akta | akta | akta | |
| a 配布数 | | 95 | 387 | 499 | 981 |
| 対面配布数 | | | 387 | 499 | |
| WEB配布数 | | | | | |
| b 受検者アンケート回答者数 | | 118 | 559 | 731 | 1,408 |
| c 利用者数；郵送検査会社での受付数 | | 79 | 314 | 389 | 782 |
| 対面配布数(c対面/a対面) | | () | () | 389 (78.0%) | |
| WEB配布数(cWEB/aWEB) | | | | | |
| 利用率計；配布数に占める利用者数(c/a) | | 83.2% | 81.1% | 78.0% | 79.7% |
| d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c） | | 74 (93.7%) | 305 (97.1%) | 386 (99.2%) | 765 (97.8%) |
| 抗体検査結果 | | | *重複感染（1名） | *重複感染（2名） | *重複感染（3名） |
| <input type="checkbox"/> HIV感染症 | | | | | |
| e 判定不能者数（割合 e/c） | | 0 (0.0%) | 4 (1.3%) | 3 (0.8%) | 7 (0.9%) |
| f 陽性数（割合 f/c） | | 1 (1.3%) | 6 (1.9%) | 6 (1.6%) | 13 (1.7%) |
| 推定 新規陽性者数（新規陽性率）* | | 1.2 (1.5%) | 3.7 (1.2%) | 3.9 (1.0%) | |
| <input type="checkbox"/> 梅毒 | | | | | |
| g 判定不能者数（割合 g/c） | | 3 (3.8%) | 11 (3.5%) | 14 (3.6%) | 28 (3.6%) |
| h 陽性数（割合 h/c） | | 15 (19.7%) | 37 (12.2%) | 65 (17.3%) | 117 (15.5%) |
| 推定 新規陽性者数（新規陽性率）* | | 6.7 (8.8%) | 8.2 (2.7%) | 32.6 (8.7%) | |
| i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c） | | 71 (89.9%) | 260 (82.8%) | 297 (76.3%) | 628 (80.3%) |
| j 事後アンケート回答者数（割合 j/c） | | () | 219 (69.7%) | 231 (59.4%) | |
| k 追跡可能な事後アンケート回答者数（割合 k/c） | | () | 190 (60.5%) | 182 (46.8%) | |

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に乗じて求めた。

** すべての集計より再受検の重複は除いた。*** 空欄は研究デザインの都合上データはない。

表2 郵送検査利用者の概要（令和2年度 -令和4年度）神奈川県

| | 年度 | R2 | R3 | R4 | 計 |
|---------------------------------|---------------|---------------|---------------|-----------|---------------|
| | 地域 | 神奈川県 | 神奈川県 | 神奈川県 | |
| CBO | NPO法人SHIP | NPO法人SHIP | NPO法人SHIP | NPO法人SHIP | |
| コミュニティセンター | | | | | |
| | - | - | - | - | |
| a 配布数 | 160 | 174 | 225 | | 559 |
| 対面配布数 | | 61 | 75 | | |
| WEB配布数 | | 113 | 150 | | |
| b 受検者アンケート回答者数 | 178 | 181 | 231 | | 590 |
| c 利用者数；郵送検査会社での受付数 | 137 | 130 | 184 | | 451 |
| 対面配布数(c対面/a対面) | () | () | 65 (86.7%) | | |
| WEB配布数(cWEB/aWEB) | () | () | 119 (79.3%) | | |
| 利用率計；配布数に占める利用者数(c/a) | 85.6% | 74.7% | 81.8% | | 80.7% |
| d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c） | 131 (95.6%) | 128 (98.5%) | 181 (98.4%) | | 440 (97.6%) |
| 抗体検査結果 | | | | | |
| | *重複感染 (1名) | *重複感染 (1名) | *重複感染 (3名) | | *重複感染 (5名) |
| <input type="checkbox"/> HIV感染症 | | | | | |
| e 判定不能者数（割合 e/c） | 4 (2.9%) | 1 (0.8%) | 0 (0.0%) | | 5 (1.1%) |
| f 陽性数（割合 f/c） | 3 (2.3%) | 3 (2.3%) | 4 (2.2%) | | 10 (2.2%) |
| 推定 新規陽性者数（新規陽性率）* | 3.5 (2.6%) | 1.2 (0.9%) | 2.9 (1.6%) | | |
| <input type="checkbox"/> 梅毒 | | | | | |
| g 判定不能者数（割合 g/c） | 4 (2.9%) | 1 (0.8%) | 2 (1.1%) | | 7 (1.6%) |
| h 陽性数（割合 h/c） | 27 (20.3%) | 24 (18.6%) | 33 (18.1%) | | 84 (18.9%) |
| 推定 新規陽性者数（新規陽性率）* | 9.0 (6.8%) | 7.2 (5.6%) | 17.8 (9.8%) | | |
| i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c） | 121 (88.3%) | 107 (82.3%) | 147 (79.9%) | | 375 (83.1%) |
| j 事後アンケート回答者数（割合 j/c） | () | 88 (67.7%) | 137 (74.5%) | | |
| k 追跡可能な事後アンケート回答者数（割合 k/c） | () | 76 (58.5%) | 113 (61.4%) | | |

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に乗じて求めた。

** すべての集計より再受検の重複は除いた。*** 空欄は研究デザインの都合上データはない。